



(3)	3	え	だ	昭和49年	=6月5日(水曜日)	第11号
である五島慶太先生が信州の人は、る、今ふうにいえばハイキングとしいととはおぼろけながら知って 申しましようか。汗をふきふき辿った。その五島さんがおつくらに かんた、その五島さんがおつくらに かた、このあたりは高級住宅地である、あっとしたものだった。 知うこうか。汗をふきふき辿りったりとしてある。吉田五十八 ちの設計になる建物もその周辺とよく調和している。季節季節に特別な展示を行っているまうである。 大々の気持はさまくれだつばかり別な展示を行っているまうである。 たっとしたものだった。 頰ブえの変形は従っていて夏でも涼した。 いるグループもいる。中庭の芝生が気持よい、その定たいをしては感動的であった。 いるグループもいる。中庭の芝生が気持たい、そのたまは狂乱怒涛の時代である。 たっては感動的であった。 いるグループもいる。中庭のちまかた記し合って な風を感じた たっては感動的であった。 たっては感動的であった。 たっては感動的であった。 たっては感動的であった。 たっては感動的であった。 たっては感動的であった。 やかりたのとしてかる。 たっては感動的であった。 たっては感動的であった。 たっては感動的であった。 やからに近くさわやか	なみたのもそ	風が吹いている 忘れてしまってらた。 そこには信州の かったいかの味を いたく住んでほんとうの水の味を いったいかったいかったいかったいかったいかである。もう東京 おつつめたい水である。 すんでみるとなるほ 書いてある。 飲んでみるとなるほ	高んでお われていますが、これでは長 たいと思 訳です。これは各種の寸法で 生産される板状の不燃建築材 指税符告にす。 何故人」Cを推奨するかと	へると云う界であって、私として でな通常廃置気包コンクリート雪 へると云う事です。かって私が第八号 ます。ではALOとは一体何だ? 十兆の八倍近い壁厚が必要になってしま った事がありますが、結果的には れた(A)経量(L)のコンクリ 断熱性能を高めようとするとこの を報に母校改築に関する意見を述 と云いますと、これは蒸気犠生さ という訳です。コンクリート文で	るグランド用地は別に他に求める 屋根等を構成する構造の事であり クリート造の壁に持たせるには、 改築は現在の場所で行い、不足す り、それにAIC版を取付けて壁 壁と同等の断熱性能を普通のコン 物沢理事長の挨拶の中に母校の改 予想している事と思いますが、こ リートに比較して八倍近くも良い 物沢理事長の挨拶の中に母校の改 予想している事と思いますが、こ リートに比較して八倍近くも良い 物沢理事長の挨拶の中に母校の改 不想している事と思いますが、こ リートに比較して八倍近くも良い いいま の立派なものが出来る事と誰しも と、断熱性能が従来の普通コンク	鉄骨ALC構造に
	たものであったものであったものであったものであったものであ	and the second s				
「うえだ」第10号拝読させてい ただきました。その中の「一期一 会」、沼田修司君(38期生)の軍 会」、沼田修司君(38期生)の軍 た。短い交友関係でしたが、彼の ひととなりが文中に偲ばれてなり ませんでした。 当時、流行した 内股にマチ を 入れたラッパズオンの裾を打た れました。 ちる彼の雄姿が、昨日のようにま ぶたに浮かびます。まことに愛す べき美少年でした。	<sup>2橋</sup> 亡き友の	け私は私なりに感ずる訳ですが、 変りはないのは甲すまでもありま ぜん。そこでとの会報を見るにつ せん。そこでとの会報を見るにつ	からなる感謝の念と敬意を申上げ らぬご苦労お骨折りに対して、心 らぬご苦労お骨折りに対して、心	図書の購入等に当てる事も出来るので済む筈です。余った	出された暖房費予算を、可成り下出された暖房費予算を、可成り下その規模に応じて、また、過去のクリート造りの学校の実例から算がに入してが採用されると、従来のコントロンが採用されると、従来のコントロンが採用されると、従来のス	屋根等の断熱性能を高める事は重求される時代ですから、建物の壁の黄質は馬鹿になりません。しています。それる時代ですから、建物の壁の黄質は馬鹿になりません。しています。その
	<b>払を新たに</b>	を一寸述べさせて頂きました。 を一寸述べさせて頂きました。	もさることながら、もっと視野をなり近況なり、あるいは思い様で投稿を希望か、もっと毎号に変った人の記事が、もっと毎号に変った人の記事が、もっと毎号に変った人の記事が、もっと毎号に変った人の記事が、もっと毎号に変った人の記事が	時れる同窓の方々のご参考までに 申述べた次第です。	高音等の点で欠陥がありましたが こそういった問題点は克服され し、そういった問題点は克服され ております。従ってALUについ ております。従ってALUについ ております。従ってALUについ たちわれば、何の不安もありませ すさわれば、何の不安もありましたが	の頃のALCの建物には防水とかの頃のALCの建物には防水と売う。 ではありません。予実初期 の中にもALCは駄目だと言う人 の中にもALCは駄目だと言う人
局幹事長等二十九人出席)、第三 回目は誰しも四十九年二月とは。 い耐と四十九年二月とは。 い敢えてご報告すると、例会こ そしませんでしたが、懇話会を契 後として会員の有志が酒盃を傾け ながら企業経営を論じたり、新し い小さな会社の設立を進めたり、 業務提携をとりきめたりで、相互 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	さて、次は筆は重いが開店休業 育公衆衛生局長の滝沢正先輩と矢 幹事長等十八人出席)、第二回目 幹事長等十八人出席)、第二回目	「二月二十一日午後六時から農林 「二月二十一日午後六時から農林 管理庁副監察官(前福田赴夫大臣 管理庁副監察官(前福田赴夫大臣	は、いつまで開店休菜している。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	いっしょなので心強い限りです くました。幸い馬場長市氏	ことだけで監事をお引受けすること	(22) 柳澤 正春
方題想になたばっ野こ長	問題懇談会	ŧ	長)のカオによるもの。矢島路健君(8回ビジネスジャパン編 「満師野村氏をただ同然のお車 で引っ張り出して来たのは、柳	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	C の約入をして頂くため、特にクランだけですので、この際進んで会費の年会費と急報の広告料収入が見なので、小林会計さん	が、会員の岩水のと の物価高の世の中で年二回の をお願い致します。 それ願い致します。
と拍手がいくたびか起こるムード でしたが、終了時間をはるかに満 きてしまいましたので、失礼なが ら該半ばにして、止めて頂きまし た。 (おわび)今回の会合について に、準備する時間が短かかったこ と、47・8回あたりの小僧が世話 してすので、大先輩各位にご案内 けです。二三の大先輩各位にご案内 したげるのは失礼な面もあると する意見のあったこと等より、四 十五才以下の若手にど案内したわ 行ですので、八月頃開催する楽 麗でしたので、八月頃開催する楽	は、人の使い方に関する非常に示 が印象的でした。 でみられ、肌で感じた舞台裏の 目でみられ、肌で感じた舞台裏の した体験を通じての、企業の経 が印象的でした。	(3回)等が熱心にメモを取る姿 (3回)等が熱心にメモを取る姿 (3回)、公認 会計士の高木 快雄君 (32)の若大将石巻伸夫君(32) (33)の若大将石巻伸夫君(32)の)、公認 会計士の高木 快雄君 (33)の)、(33)の(34)の(34)の(34)の(34)の(34)の(34)の(34)の	多くの人がポイントをついた資間があり ういで割愛。「何かど質問がなっくり。と うなに真剣に講師がびっくり。と うなに真剣に講師がびっくり。と うなに真剣に講師がびっくり。と したのには講師がびっくり。と したのには講師がびっくり。と	分であり、ご辞退すべきではない  かとも考えたが、母校同窓会のと	第である。もとよの浅学菲才の自然である。もとよの浅学菲才の自然でないたので、「「「「」」の「「」」」の「「」」の「「」」の「「」」の「」」の「」」の「」」	新「新島」(25)馬場長市
上田市長を訪問 上田市長を訪問 二行が、昨年十一月に新市長に当 「そのが、昨年十一月に新市長に当 「その、昨年十一月に新市長に当 「その、昨年十一月に新市長に当 「を記録いした。 「日本など懇談、今後のご協 「石井市長も必よくご承知され、 「石井市長も必よくご承知され、	う努めるべきではなかろうか。まう努めるべきではなかろう。お引受けした以上、監事としては、会の運営に適切た医事としては、会の運営に適切した以上、監事として最善を尽し、健全な同窓会	会に有為な人材の輩出に役立つよなり、また各種事情も異なる故、 関心をもち、母校の発展と実社 は関心をもち、母校の発展と実社	に意義があり、お互い同窓会の発に活躍されている人達である。無いても役立つ社会人ともなり得るいても役立つ社会人ともなり得るいても役立つ社会人ともなり得るとれる方は、健康でしかも実社会に活躍されている人達である。無	より、人間関係をより深めること 志が一堂に会して話し合うことに しかも故郷を同一地方に持つ者同 しかも故郷を同一地方に持つ者同	□ さて同窓会の意義は何か、また □ こて同窓会の意義は何か、また □ たではあるが、日頃考えているこ とではあるが、日頃考えているこ	とでもあり、誰かが引受けねばお さまらない監事職であろうと思い 幸い柳沢先輩のご指導を得て、
あなたはどんな方法 で広告を企画されて						<b>小月</b> 習
<ul> <li>いますか</li> <li>テレビ、ラジオ、新聞、交通、折込</li> <li>印刷、電気装飾沢山あります</li> </ul>	全自動が	小型オフセット そ <b>ラー旅</b> 式	印刷機 【会社		看板の文字は最初は請 ん。これは本人の素質。 境と努力によるものです が伸びる小人数の楽しい 満22才以下の人を求め。 電話下さい。 看板企画製作	よりも、職場の環 す。当社は若い人 ♪職場です。 よす。お気軽にお
美広社 柳 生 栄					回転看板製造元(PA コミー工芸材 小宮山	式会社
新宿区新宿2-17 坂喜第2ビル 306 丁EL (354) 8237・8277 (32期中村礼三の女婿です)	支 店 北	〒105 (5 1) 新 (03) 667-0( (海道支店=札幌市・〕 川・青森・秋田・新	) 6 1番 (代表) 東北支店=仙台市			明小諸市出身)



<section-header><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text><text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></text></section-header>		(5)	·	え	だ	昭和49年6月5日(水曜日)	第11号
	の言として		hur	· Ajelle cille de la construction de la construcción de la construcció			異色の上田合同三一
	は形式	して澤の大木と取組む毎日とか。 加々井は三年のケニヤ生活を終え、 で帰国したばかりと云う。 小林芝興は弁護士とは思えぬダ ンディないでたちで出席、かたや 和二点をの 町広窓とはいえどの言動が東人を のものであるのが上屋に行であっ た。高木は公認会計士として独立 時候を生かしている。吉村(井上)		the second secon	し日調を引は、ハーー 日間を引きた。だがとてもの でいた。だがとてもの でいた。だがとてもの になんでもない真面目 になんでもない真面目	ここにたたえ母や姉といえどたとえ母や姉といえどで上田市内を歩いてである。女性ったものである。女性ったものである。女性	
	U B	マクカール」を 児のママ、大山 (原由) さんば御 ( の種として特 主人の事業に協力とのとと、かつ アやは9多く 事の不手際というか無責任という か、会の名称も、次回の段取9も せずに散会してしまった。その後 世の三人間中であり 光葉に転号した町、お便りをいた。 のして山際 だいた。 シレて山際 だいた。 まて在学中 である。今度は十分にお勝立てし 輝 どれた。 その者でした町、お便りをいた 野県に帰り観 小	西の 考っ ショニルショー 西の 考っ ショニルショー 一日 (土) 午後 高時 株備 日 (土) 午後 高時 株備 一日 (土) 午後 一日 (土) 午後 一日 (土) 午後 一日 (土) 午後 一日 (土)	し、幹事は宮入と宇町両君に、恵 くし、幹事は宮入と宇町両君に、恵 く た。実現は九分とおりの見込みな た。実現は九分とおりの見込みな た。実現は九分とおりの見込みな た。実現は九分とおりの見込みな た。	1.4.5.4 生物の尾崎毅先生となつかしい三 一部公司、「君和久白、韓王のを海武なのかしい三 一部の尾崎毅先生となつかしい三 一部の尾崎毅先生となつかしい三 一部の尾崎毅先生となつかしい三 一部の尾崎毅先生となつかしい三		まろう 加して 席) 細胞ーーーの 「「「」」、 「、 」 「 」 「、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「 」 「」、 「 」 「 」 「 」
			つ。(3) 矢島五郎記 二千教名(氏名省略)	90	したりかっしいにお話れ、トロマ・シュタイ 「一あとで問題のス、の機会には必らず 「一あとで問題のス、の機会には必らず 「一あとで問題のス、の機会には必らず があるぜく、 「にも なので、心当たりの なお、年来の幹事は、加藤 「しょう」	にしていた。 ななした。 ななした。 ななした。 ななした。 ななした。 ななした。 ななした。 ななした。 ななした。 ななした。 ななのののののののでのでので、 に、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	いつけ、総勢の名の多数 るの同期の桜が特別参加 るの同期の桜が特別参加
精密菌車裝置設計製作 精密機械住上加工及組立 <b>若葉精密工業株式会社</b> 取締役社長 土 屋 学 (31期) (九子町出身) 專務取締役 土 屋 博 (47期) (") 取 締 役 土 屋 孝 (44期) (")		での支欠に して、 なる大平洋戦争中の激動の に共に学び、共に勤労動員に た友を偲びつて、読経の流れ してき友と無言の語らいをし に考えに勤労動員に に支えの語名 市村逸郎君 本書三君 本書三君 本書五君 本 本 本 本 本 本 二 君 二 君 一 に 男 二 君 一 に 男 二 君 一 に 男 二 君 一 に 男 二 君 一 に 男 一 に 男 一 に 男 一 に 男 一 に 男 に 加 り り 、 秋 後 の で 馬 い や に 加 わ り 、 秋 後 の で 馬 い た の で 馬 い た の に 加 わ り 、 秋 後 の 氏 ら い を 助 け つ の い 長 に 加 わ り 、 歌 長 い に か ら い を し つ い た い た の に い つ い た し の い ら い を し い た の に 二 り し り 、 、 、 、 、 、 、 、 、 に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	の友あり全員で実福を祈った次ま の友あり全員で実福を祈った次ま		坂)文郎、平良隆夫、依田克己、牧内 操が当番となる (イ) 牧内 提記	in the second	
精密國車装置設計 要作 精密機械仕上加工及組立 <b>在京·啓明会</b> <b>基葉精密工業株式会社</b> 取締役社長 土 屋 学 (31期) (九子町山身) 專務取締役 土 屋 博 (47期) (〃) 取 締 役 土 屋 孝 (44期) (〃) 日 成 沢 祐 介 (55期)		十 既に一 に 卵茸した 700 お去り 難く 宿泊 字定でない 者 お方 り難く 宿泊 字定でない 者 でないら出立を促されて 名残惜 そうに 解散した 次第である。 出席者は 次のとおり。 出席者は 次のとおり。 出席者は 次のとおり。 出席者は 次のとおり。 出席者は 次のとおり。 出席者は 次のとおり。 に一郎、池内 哲夫、金井 真武、 秋二単税、一 紅 敷託 工 市 がら出 工を促されて 名残惜 たうに 解散した 次第である。 出席者は 次のとおり。 日素 夏、(以上上 田近在) 、 です、 一 和 内敏雄、 柳 沢春 彦 田元 で 知 内敏雄、 関邦雄、 永 四清 取、 小 山敏雄、 関邦雄、 永 四清 か 氏 二 正 (1) (以上 上 田近在) () () () 上 田近在) () () () () () () () () () (	のい先だって幸いにして後金につい先だって幸いにして後金についたとうだ」と聞いて途端 まれたそうだ」と聞いて途端 まれたそうだ」と聞いて途端 (4)小山厚三郎記 (4)小山厚三郎記	同番目かの仲間から「そいつな 「おめえ当てはねえか、お て、「おめえ当てはねえか、お て、「おめえ当てはねえか、お て、「おめえ当てはねえか、お	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		たりました。 「い続けたととであった。 「ない続けたととであった。 「ない続けたととであった。
		精密機械仕上述 若葉精密工業 取締役社長 土 屋 専務取締役 土 屋 取 締 役 土 屋	加工及組立 <b>後株式会社</b> 学 (31期) (九子 博 (47期) ( 孝 (44期) (	町出身) 〃)	在	R     ·     P       滴     沢     仲(25期)       山     岸     一(30期)       し     岸     一(*)       長     張     伊(10)       土     屋     一(*)       土     屋     第(31期)       小     林     翔     司(40期)       浅     野     敏     正(42期)       成     沢     祐     介(55期)	会

T

第11号 昭和49年6月5日(水曜日)	) <u>z</u>	た	(6)
本月またスターマイン・マーオ・スーニー 本月またスターマイン・マーオ・スーニー の月十三日は東京六大学野球の 選手諸君、背番号24の選手はグラ 間幕日である。昨秋、四勝して明 ウンド中央まで小学住によく見ら 治の優勝に貢献した丸山清之投手 れる右手右足、左手左足の歩き方 東大の本塁を死守して好プレーを で一寸驚いたが、如何にも緊張し ために既にご存知のとおりで かる右手右足、左手左足の歩き方 東大の本塁を死守してがプレーを で一寸驚いたが、如何にも緊張し ために既にご存知のとおりで 歩き、昔日の面影のないのはどう ある。開幕第一戦は朗東戦なので したことだろうか。まさか江川シ 二人の活躍を一度にみることがで コックでもあるまい。江川に限ら きると、横着な考えで神宮球場へ す他の高校球児に対する入試の應 うく、今年も現六大学寄判の山崎 度は誠に立派だった。流石、慶応 行く。今年も現六大学新知の山崎 度は誠に立派たった。流石、慶応 たく、横着な考えで神宮球場へ す他の高校球児に対する入試の思 ななどきこそ一致団結、奮結超し な。六大学の入場式を見るのは何 て欲しい。 東次の石場であっ。両手を振り 試合は東大の奮戦で明治と圧倒 歩調をとって行進したのは立教の 最後に反撃されたが、一点差で逃			飛躍発展する柔和 上田で総会と物故者慰霊祭 (4) 柳
正に勝手知ったる仲、さそやり いことだろう。緒戦の一回やう で両君の調子云々するのはどう と思われるが少々苦言を、呈し れ。 かい。対東大三回戦には完投してい。対東大三回戦には完投しているのではないし、球のキレが る悪い。身体の動きも重く走り みが不足しているのではないか たっても定念場だと思うし、左		のしたってのお田し出があり、昨年のであった、 定時依田誠先生から先生多 るが、恩師依田誠先生から先生多 なるのうち物故者の法要を営みたいーとの たってのお田し出があり、昨年の 春以来、東京柔和会から会長市施 春以来、東京柔和会から会長市施 育夫(19)、幹事長小林郷司(40) 先輩、それに柳沢広(44)が上田 市へ参り、地元の横関辰雄(83)、 小林軍治(37)、小林陸男(93)、 小林軍治(37)、小林陸男(99)	またの上への頭へび、 PF
てし おんし ち 走け ご なのをて い 者な 番	その近、大きな中心にある。お 限りであるが、バットの素炭りを れに読 あったが、大きな中心にある。お 限りであるが、バットの素炭りを れに読 かったが、大きな中心にある。お 限りであるが、バットの素炭りを れに読	(土) 午前十一時かう上田市横町 (土) 午前十一時かう上田市横町 た。式次第は小林軍司先輩のみご た。式次第は小林軍司先輩があたられ た。式次第は小林軍司先輩があたられ た。式次第は小林軍司先輩のみご とな司会で進められ、出席者はみ な涙をさそわれるほどであったが 最後に遺族を代表して岩下美千穂 さん= (元上田高校長(名) =か ら切々たる謝辞が述べられ、とど こおりなく終了した。 この日、お集まりの遺族の方々	ばれた者は全員柔和会員として会 を大きく職進させていとうとの意 そこで、地元では前述の先輩諸 兄が再度にわたって会合を開き、 諸般の準備をとり進められた。わ おわれ東京勢も二度上田市へおも むき、とこに準備万端ととのった のである。
すし、 した時、明治 にしなかったので、これを垂 で、 ながったので、これを垂 で、 で、 たが、 和出来なかったが、 、 たで、 の に しなければならない。 た で、 に しなければならない。 た に し な に し な に れ た 時、明治 に た の で、 れ と れ を 手 の に し な に つ な か た が、 、 れ に つ な の た が、 、 れ こ 、 こ れ を ま た 変 わ っ 、 こ れ を ま た 変 わ っ 、 こ れ と ま た 変 わ っ こ 、 こ れ た で 、 、 れ 二 こ で い る の か た が、 、 、 二 に つ で い る の か た が、 、 、 二 に つ て い る の か た が 、 、 れ に つ な ら た 歌 、 、 、 こ し な に し な け れ ば な ら た 時、 明 治 に い る の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	た。 相当する同葉術であった た。 相当する同葉練習生は第一回 た。 相当する同葉練習生は第一回 た。 相当する同葉練習生は第一回 た。 相当する同葉練習生は第一回 た。 相当する同葉練習生は第一回 た。 和当する同葉練習生に第一回 た。 和当する同葉練習生に第一回 た。 和当する同葉練習生に第一回 た。 和当する同葉練習生に第一回 た。 た。 た。 の に に たのに た で あっ た。 た。 の に れの時 し その時 は その に は その に は その に よって 使 用 、 た 、 あ んなに ハッキリと る ことから、 あ んなに ハッキリと る ことから、 あ んなに ハッキリと る た で ま れる で た の 体 用 い た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の の の た の た の た の た の た の の た の た の の の た の た の の の た の た の の の た の た の の の た の の た あ んなに い っ キ り と ある。 の た の た の の た あ の た の の た の の た の の の た の た の の た の の た の た の た の た の た の た の た の た の た し た の た の た の た の た の た の た の た の の た の た の た の た の の た の た の た の た の の の た し た の の た た た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の の で つ た の た の た の た の た の で の た の た の た の た の た の た の で の つ た の た の た の の の で の の の で の の た の の の の の た の た の の の で の の の の の の の の の の の の の	は、「「「「「「「」」」」(「「」」」)」(「「」」」)」(「」」」)」(「」」」)」(「」」」)」(「」」」)」(「」」)」(」)」(	たな また も、 名 就 男 した 。 また 役 員 に は 小 林 郷 司 た て は 、 会 長 に 満 場 一 数 で 決 完 し た 。 ま た 役 員 に こ っ て 、 会 長 に 満 場 一 先 電 、 司 に は っ 来 た 役 員 に に こ っ て 、 会 長 に 満 関 同 健 手 豊 、 つ い て は 、 会 長 に 油 寺 豊 一 先 電 、 司 先 二 、 電 、 こ 先 一 先 電 、 の 記 、 二 売 電 、 こ 、 こ 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 二 、 こ 、 の 、 こ 、 こ 、 、 の 、 の ま た で 、 つ い て は 、 一 た こ こ た っ ま た で 、 つ い こ た 、 、 、 こ な 、 、 こ 、 、 、 、 で 、 、 つ 、 、 こ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
た機を敷ったことがあった。その た機を敷ったことがあった。その たる、またと即治は妙にウマが ら、緊褌一番、日体大に合格、野 なお本年は丸山、渋沢両君と同 期の小林善一君が一度は社会人に なったが、勉学と野球への情熱か ら、緊褌一番、日体大に合格、野 そゆるがず後輩の活躍にごたに合格、野 をゆるがず後輩の活躍にごた自下 さって、絶大の御声援を希望する 次第である。	キレヨー キレヨー デスリン きた」ときた」と ますく」ときた。「よしきた」と ますく」ときた。「よしきた」と ますく」ときた。「よしきた」と ますく」ときた。「よしきた」 とまた。「よしきた」 とまた。「よしきた」 とまた。「よしきた」 とまた。 で私の名を発見してわざわざ先頭 で私の名を発見してわざわざた頭 で私の名を発見してわざわざた頭 で私の名を発見してわざわざた頭 で私の名を発見してわざわざた」 で私の名を発見してわざわざた」 で私の名を発見してわざわざた」 で私の名を発見してわざわざた」 で私の名を発見してわざわざた」 をれば戦前、八十川投手のギーク それば戦前、八十川投手のギーク		、幹事長小林郷司先輩、幹事傷 た。 それ選ばれ新発足することになった。 それ選ばれ新発足することになった。 満暦の山遠く一風秋をもたらせ ば」の柔道部歌の大台唱に一同、 青春の日を思ったことであった。 おわりにまことに残念であった
ト田高校同窓生有志が月一回開 ト田高校同窓生有志が月一回開 ようになり、特に最近は女性の出 なったなり、特に最近は女性の出 たるの頃の会合の範、五月十九 日(日)にはハイキングをしよう と計画もされたが、諸事情で一時 と計画もされたが、諸事情で一時	がという。	た。「おゝ小山!」と思わず口に 出した。私はただ簡単に「別に無 し、左右後方の見張りだけは完全 で訓示した事を覚えている。 土浦時代、甲板練習生で鍛えた い。崇明島、上海競馬場等の上空 を私は操縦桿を握りながら、上中 時代に特に親しかった級友小山君	んでおられた小林郷司先輩が、前したであった。こうして、柔和会が、前者先輩の第方はもとより、総員の諸先輩の方法であった。こうして、柔和会が諸先輩の努力はもとより、総員の諸先輩の努力はもとより、総員のであった。こうして、柔和会がで堅く結ばれ、更に大柔と和の心で堅く結ばれ、更に大柔と和の心で堅く結ばれ、更に大であった。こうして、柔和会がであった。こうして、柔和会がであった。こうして、柔和会がであった。こうして、柔和の心で堅く、
した男は3人である。 五月十九日の日曜日、行楽客で 「現次された気分と、華やか	Сладования (При на 1997) Сталования (При на 1	「 」 「 」 した間でした」 に来たので、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	とのとのドラマチックな出会いを やいら楽しく考えながら飛んだ。 時に偵察席を振り返ると彼も本当 時の同期生鈴木兵曹(現世田谷 当時の同期生鈴木兵曹(現世田谷
回した山猿共、ここぞ男の見せ所 草の吸い過ぎ、息切れするのは男 ばかり。 と云いたところが、日頃の煙 や。と云いたところが、日頃の煙 や。と云いたところが、日頃の煙 や。と云いたところが、日頃の煙 に心を奪われながら、歩く事二 時間、目的地に到着。苦労した後 の全てを忘れた一瞬に今日の喜び が凝集される。 心尽しのむすび、果物を食べな から日頃感じ合えない心の触れを 会社や同窓会などの固定された 人。少を盛りのさつきの競い合 人の集る、わんだれ会」は無限な 人の集る、かく云う私も諏訪 満続高校の同窓生の一人りであ る。 (祖父江 室三記)	するに、したたとしたら、さを長生きができるだろう。 とは信じられない。小川町郊外に 到着、一同深呼吸をして山登りに かかる。忘れかけていたれんげ草 麦穂の波、じゃがいもやネギの段 々畑等々、一つ一つが新鮮で来て 良かったなあーと一同感嘆する。 こんな所で暮らしたら、さを長生 きができるだろう。 たつーチ、リードするは、幼少の 頃を信州の山の中で廃りれを振り	な服装で車中の飲読も又楽しい。 な服装で車中の飲読も又楽しい。	る。然しそう言う優秀な部隊は最 高えば世界最強とも言われた艦爆 際である。「お自出とう」と励当 した私は言葉とは真腹に復雑な気 持だった。 昭和二〇年春頃、小山君は神風 昭和二〇年春頃、小山君は神風 ちがな事をした」と思った。

•うマれの 、う 気 鼠 男煙所りの性歩 生 て段章ににう 。顔によ写 気当爆を最 そして後押しをたのみます行う事は難しい事です 大変な事です
アサヒビールに情熱のすべてを傾けたいのです あたたかな人間味で溢れさせたいのです。 銘柄も品数も少いかも知れません 酒類、煙草、食料品、調味品 誠実、思いやりの少い事は恥かしい事だと思います店の小さい事は恥かしいとは思いません小さな店です 大変な事だからやりたいのです ぐ、活 〒160 天ぷら、ふ 魚 4 (山吹みそ) 専売店 (36期)伊藤東四次郎 A社 信 川 屋 としいろ としいろ 東京都新宿区四谷二の九 ゆ き ts 5 割 烹 ふるさとの味です。御宴会、御商談御家族連れに御利用下さい。 新宿区戸塚町2-99 TEL03-200-0775 三井 明(51期)(上田市新田出身) 23

<ul> <li>(7) う</li> <li>関東支部・新幹事氏名一らん表</li> <li>(昭和49年4月20日現在) {〇印新幹事} [19] 第39 143名」</li> <li>長久保俊夫 29 吉川 数馬 36 〇山本 五助 49 中沢 重夫 馬場 友義 // 六川 善一 37 関 邦雄 // 〇遠山 益男</li> </ul>	ž Norod		昭和49年6月5日(水曜日)	<sup>第11号</sup> 関東支部
志摩 況平 ・       井村 蜜 ・ ○ 柳沢 春彦 50       井田 藤秀         1       岩崎 文雄 ・ ○ 沢 明人 38       清水 幾男 ・       関 継夫         30       尾台 三吉 39       長藤 勝 51       永井 洋司         5       成沢 一郎 ・       曲尾 清 40       市川 寛 ・       村田 寛         5       片岡 武雄 ・ ○ 小泉 信好 ・ ○ 石木 林 ・       早川 正範         7       小平 貞介 31       小宮山庄三 41       宮下 俊夫 ・       浜村 好宏         3       遠遠藤 文介 ・       宮坂 三吉 ・       清水 栄一・       田島 元宮         ○ 仲沢款太下 ・       柳 達雄 43       小林 勇 ・       瀬内 正智				事会
<ul> <li>○ 伴 琢磨 / 矢局 五郎 / 上野 飯能 54 深町 勝男</li> <li>⑦ 布施 信夫 / ○ 加藤 三郎 43 ○ 清水 哲夫 / 小市 則夫</li> <li>⑤ 吉井 道教 32 中村 礼三 / ○ 松岡 裕 / 馬場 武彦</li> <li>○ 石井 保 / 高見沢澄平 / ○ 小山 栄治 / 馬場 進二</li> <li>○ 和田 斉 / ○ 清水 信 44 ○ 柳沢 広 55 田島 正領</li> <li>□ 島田 次郎 33 土屋二三男 / ○ 小林 義徳 / 関 五郎</li> <li>○ 大日向孝二 / 弘信 / ○ 篠原 保 / 成沢 裕介</li> <li>2 柳沢 正春 / 飯塚 茂男 44 ○ 星野 賢造 56 小宮山 栄</li> <li>2 小野寅次郎 / 临本 和政 / 南沢 次雄 / 堀内 幸</li> <li>3 小島 瀕五 / 保科 厳 / ○ 児玉 志郎 / 清水 義幸</li> </ul>	少しも変ることなく …」と述であることが 部長の年頭の挨拶と になったきいの言葉	本年 大変な時代になったが、この会は 本年 大変な時代になったが、この会は 大変な時代になったが、この会は	た。 神であしていた。 通日昭 部 武 武 明 部 る 。 通 日 昭 二 一 昭 二 一 昭 二 一 昭 二 一 昭 二 一 昭 二 一 昭 二 一 昭 二 一 代 の 一 の の の の の の の の の の の の の	·新年会 <sup>報告記</sup>
大森 顆雄        飯島 力夫 47       沢本 敬郎        ○ 撇下 正利         4 小林 連美 34 ○ 林 克己        城下 利雄 57       宮原 修         • ○ 依田 赳夫        ○ 御沢 年        小山 邦朋        松尾 邦夫         • ○ 依田 赳夫        ○ 御沢 年        小山 邦朋        松尾 邦夫         • ○ 富岡 秀 35       花岡 倍        加藤 文郎        岡村 潔         • ○ 富岡 秀 35       花岡 倍        加藤 文郎        岡村 潔         • ○ 富岡 秀 35       花岡 倍        加藤 文郎        岡村 潔         • ○ 富岡 秀 35       花岡 倍        小木 曽 文郎        ○ 二屋 光男         • ○ 福田勝之助        一石倉 謙一        井出 周利 53       林 嘉市         • ○ 福田勝之助        一石倉 謙一        小木曽 誠        赤池 三男         • ○ 福田勝之助        ○ 白倉 重        一       小木曽 誠        赤池 三男         • 坂田 隆雄        ○ 塩入 重雄        清水 卓 62       岩井 重       一         • ○ 二 田 六郎        堀内 停        ○ ⑤ 飯 俊夫       ●       ○ 富山 陸大         • ○ 富崎 久登        田中 六郎        堀内 停        ○ ⑤ 塩入 隆夫         8       坂井 実進        丸山 英人        牧内 清        ○ 浅井 保雄	したい、「「「「」」」、「」」、「」」、」、」、」、」、」、」、」、」、」、」、」、	<ul> <li>〇 役 員 幹 事</li> <li>(21) 島田 次郎</li> <li>(23) 大森 頼雄</li> <li>(企画) (28) 坂井 実雄</li> <li>(組織) (30) 尾台 三吉</li> </ul>	★ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	末谷 一、紙三原稿谷 房 初以枚 日 内 数 日 四 四 四 四 四 四 四 四 四 四 四 一、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、
	マ     要     要     要       マ     副     幹     副       マ     副     幹     副       マ     副     幹     計       ロ     す     部     告       S     三     一     5       マ     副     会     監       S     三     一     5       S     三     一     5       S     三     二     5       S     三     二     5       S     三     二     5       S     三     二     5       S     三     三     5       S     三     三     5       S     三     三     5       S     三     三     5       S     三     三     5       S     三     5     5       S     三     5     5       S     三     5     5       S     三     5     5       S     三     5     5       S     5     5     5       S     5     5     5       S     5     5     5       S     5     5     5       S<	<ul> <li>40) 小林 鄉司</li> <li>44) 柳沢 広</li> <li>44) 柳沢 広</li> <li>47) 牧内 操</li> <li>(51) 荒井 信明</li> <li>(58) 林 嘉市</li> <li>(62) 飯島 俊夫</li> <li>422) 柳沢 正春</li> <li>(25) 馬場 長市</li> </ul>	を部事。 発行の会計 を部事。 発行の会計	昭和四十九年九月 で において取扱っています。
	会務報 「新安島」となった。 「新安島」となった。 「新安島」となった。 「新安島」となった。 「新安島」となった。 (48) 行利 (48) 行利 (54) 月 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	当委員11名         〇広告祖当委員9名           ミ島五郎         (31) 土屋         学           ロ村礼三         (36) 伊藤東四次郎            「倉謙一         (40) 石木         林           貴水幾男         (47) 小山邦明            青水         卓         (48) 小木曽            小沢         位         (49) 池田芳彦            「日寛         (54) 小市則夫             馬場武彦         (56) 小宮山         栄	く気費納入について 会費納入について 電査室(五月か六月) る場合もあります。 「日の私込票を同封し、れ同期生の会合が年に一回か二 観を全意に送るとき(三)または、名朝にはそれぞ 観を全意に送るとき(三)または、名朝にはそれぞ 観を全意に送るとき(三)または、名朝にはそれぞ 観を全意に送るとき(三)または、名朝にはそれぞ	とします たは、その会場の受 方は、その会場の受 たは、その会場の受
	して六〇期時 する 部門の 連営を ろ 部門の 運営を の で う 損保する もので 一 次 に会 報発行 る もので	様広とち〇しらのさとう	本会会計は(石)牧内会計事務所上田高校同窓会 で、次の如く設定されています。 「回か二・関東支部 」回か二・関東支部	その月会費は一、000円で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
		ある。そのテーブルに最年長グループの期 ある。そのテーブルに最年長グループの期 ある。そのテーブルに最年長グルの大変 がどうわれ、如何にも新年宴会に ある。そのテーブルに最年の大変が たちりしい雰囲気であるが、今 受持った 回はテーブルを五つ設けて、中央 さわしい雰囲気であるが、今 そこれの ためるというやり方である。通常の ためるというやり方であるが、今 で集まの ためるというやり方であるが、 の ためるというやり方であるが、 の ためるというやり方であるが、 の ためるというやり方であるが、 の ためるというやり方であるが、 の ためるというやり方であるが、 の ためるというやり方であるが、 の ためるというやり方であるが、 の ための たちりしい を日の たちりしい を日の たちりしい を日の たちり た である。 で の 方		
<ul> <li>○ (42) 土屋 更一 御妻女寛子様より文書で報告</li> <li>○ (42) 土屋 更一 知人より文書で報告</li> </ul>	山台一		テーブルに名期のクル	区下落合1523
· 於電影 · 後電影 · 後間 · 後		連 離 幹 場 同	会 歓 迎 幹 副 <sup>会 恩</sup> 事 会	東
<ul> <li>取締役社長 広示 「「」」」」</li> <li>本 社 東京都新宿区三栄町7番地(原嶋) 電話(357)8861(代)~5. (359)6414(夜間)</li> <li>工 場 東京都東村山市秋津町2-11</li> <li>大阪支店 大阪市南区鰻谷仲之町26 東心斉橋</li> </ul>	專用) L 8 4		小小布保林林施田	
<ul> <li>新宿・京王百貨店 柏・高 島</li> <li>上野・京成百貨店 玉川・高 島</li> <li>大宮・高 島 屋 池袋・西武百</li> <li>東京・高 島 屋 渋谷・西武百</li> <li>横浜・高 島 屋</li> </ul>	屋 屋 貨 店	二) 小 新 前 二) 小 秋 部 一 の 新 一 、 新 部 一 、 の 和 新 司 一 表 、 (44 期) (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 、 (44 期) 二 会 内 一 一 合 日 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	郷 運 信 司 美 夫 調 40 24 19 分期 期 期 到	

	てお願いします。(三十一日夜)	指名して原稿の責任を持たせてはして	小泉欣一(以上一六九名)	「掛川 耕吉・渡辺 南男・金井	<ul> <li>         一茂夫・尾崎 文彦・鍋島 堅造     </li> </ul>	一史・桜井 国男・市村 隆・内海	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	Mundthodthiodthiodthundthodthindt		
	らいたいことを、会員諸氏に重ね	幹事会などの記事は	小西 租	昭良・山	孝之(53)山浦 重男・	(4)小林 健三	朝日荘十号室(以上二十九名)	<b>垣 正人</b> 武蔵野市	時生	
才	原語なしまう。	寮などの記事	TX4	料記で	征天・竹内 広孝・	重弘・滝沢文男・ヨ	中野文大和丁二一四九一十一	田地十四一三〇七(55)	11 調布有架大寺打一九九八第二葵	第1
1	にだいた天々に厚	てはどうか	衛・木島 戎美・		・和泉民人・	古谷 達孝	E	- 林	1 11111110次・14 12	1号
2	御協力下された会員の方々、広	写真などをもっと	小林建一(33	・相内昭。へ	(2) 須藤 台部	1	減七二 (62) 片山 隆行 横	-	「「「「「「「「「「「「「」」」」」」、「「」」」、「「」」、「「」」、「「	
r J	の皆様で苦労さまでした。		木東文・宮尺、眞形・尹寮、終一、シュノト、夏水、夏水、夏、ノネ、金	1月月 月月	· 思考· 尔勺 亭葱 三大 败 七 · 346 · 15 · 34日 《良· 山才	一東三・中寸・寛ス(9)へ、日二、数、弦陽(信女)、3、ング伊日	(6)伊藤芳忠 上田市下之	クリーンタウン五一一・小宮山	初柏陸上自衛隊第一高射国長	- 1
TAT	工場に送り込んでヤレヤレ。委員	てな	念・写真	亘・	三良。桜井	了 了 信	市藤崎 三十四十七川島 荘	葉県日旅郡匹街道町第二旭ケ丘	一日日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の	昭和
1111	しなおして、六月一日(土)午後		110	系の広範で	三路一份丰	(3) 学田 道	松尾	七一〇四・大久保満夫千	関 調箱 守都宮市領幸町九〇	¢14
Z	委員でもう一度補促したり、編集		<b>官算</b> - 男	長雪 七寸	武義の	安(2) 重見 卓良(	沢 建男 狭山市新狭山二ー十		大宮市新堤三七上三 (35)	9年
5	矢島、花岡、石岡、清水、柳沢の	には君の原稿を集めたい	•小林真一•成	の手・浅井正・立室	从田 郁夫(50)大塚 文章	)渋谷 訓意・(20			- 2	6)
k	間に合わないので、三十一日夜、	期	へ 綱島 武寛・	。鏡 天	郷•井本 正夫•鶴見 慎	「延寿・	え 「「「「「「「」」」	<b>戸</b> 変 夏		月5
)	まで続いた。一部の原稿、写真が		・第月・邦彦・	・柳橋 万之・堀内 忠雄・藤井	49)藤原 実		•••••	斤臣王	北新宿	E
7	社の扁裏室の加き舌気が変おそく	るものと思うが 第十一号を迎え	• (6) 市川 和延·尾和 正暉	(55) 宮島 光男・高橋 富夫	・宮坂 彬・宮沢 行文・小沼	したら「はがき」等の文書で事務	••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	新	()
1	ハ省への督足電話、さよがつ所聞	後で、花岡委員長からも説明があ	忠義・滝沢武男・滝沢忠子	野 厚・百瀬 寿彦・滝沢 克彦	1000	同窓生の方で御存知の方ありま	久保町 1-11		八六九 (3	水曜
J	国川計画を、その東島があった。病	矢島本日集って貰った意味は	神津寛八・日田久米雄・東山		・金子 寿夫 (47)	の分が返送されてきました。		(5) 成尺 委公 小诸市大	30) 木内 浩雅	18
12	林、岩井の各委員が出席して、各	Sh I	土屋哲・田	時沿喜・高田	71	号をお送りしたところ、次の諸氏	二(シア)川上啓示、流山市	な1	∽ 小 二 東	<b>)</b>
ſ	場、小市、清水(義)、小宮山、	んどん書いてもよいではな	取っ 省三・	藤 弘 55 1	1 辰三·葛橋 昭平(16) 他为	昭和四十九年二月に、会報第十		朝二月二日一日二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月二月	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	
•	岡、石倉、清水(幾)、池田、馬	大来一足のよい京高ときて、委員	副·曾男•青水·光兑•羯一斋————————————————————————————————————	山本 大吉邨・左藤 武専・久島	なった君	返送に、	- +1	1 沙原	使合	
	第二回編集会議、矢哥、土屋、花	即・国小市貝夫・国岡木溝				Ξ.	市下藤沢九三(56)滝沢健	1	今日で次の諸氏が、住所変更さ	
ſ	<b>公</b> 八時	-	- 701	「四世・	が	80号「うえだ	:	九山		
ŀ	今後の氏面に明寺とい。						Nundfilterriffburdfilterriffburdfilterriffburdfilte	vedRheadMteadMteadMteadHteadMteadMteadMteadMteadMteadMteadMteadM	- Withow	
	来るようになったのは大きな成長	三・四石倉謙一・四清水幾男・回			一各同窓会の内容や運営などお互に	んだ。(38)清水幾男君等のベテ	たところ、本日ギリギリにメンバ	支部長と(31)矢島五郎幹事長、	僚友校の染谷丘の淑女やそのお	3
9	集めたい。本日いろいろ会議が出	編集委員(編集担当)の中村礼			義な会合であった、談合の寸時、	て熱意と誠意をもって編集に取組	よりの新幹事推せんを願っておい	大森頼雄、 (28) 坂井実雄の両副	æs.	
5	消息などはどんな小さな記事でも		· · · · · ·		興もとび出し、全県の和合の有意	長や小生の挨拶後、		会」が開催され、本会から(23)	継続であり、一度も欠かした月は	
-	軟かい記事も大いに入れて、会員				南信地区の地区自帰	0	年三月をもって任期	て「長野県東信地区高校同窓連総	四十五回目の会合で三年半以上の	
3	むづかしさもあって、楽しい記事	の大森支部長・の矢島副支部長	2 2 3 3 3 3				幹事会」を開催す。昨年来より本	り、高円寺にある根津会館におい	この五月一日の会合で、実に第	
17	るので、時間的にも強要出来ない		na		第一部総会の各事項協議等あり		回四月二十二日(火)「本会の新 気 新音の話ることして	◎三月二十三日(土)午後一時よ		
ł	の諸君もそれぞれ仕事をもってい	<b>H1</b>			た。	会議(今回発行の第一	主、田部の議をつくした。	まし、「おり回をたてた。	での有志会員で実に楽しく語り会	え
1	きめてと色々やって見たが、委員	一方りれた。	<b>来</b> 会		うしても公用でど	-	7	れ、出席交八交、総会の歴会を明	も出る、二十朝七から六十朝七ま	1
-1	て見た。テーマをきめて、担当を	命	: 颜		の神野	③五月十五日(火)下炎六時より	に新生気を見ていたい。	長野県人会連合会事務所で開催さ	会食のなかこも、関東支邪の活菌	
1	期の原稿も種々手をつくしてやっ	って記事が会員こ次印をつるい、	(5		キ、(10) 尾台の両削友邪長い、「「「」」、「」「」、「」」、「」」、「」、「」」、「」、「」、「」、「」、「	大要以上であった。	-	再建り丁含くそう杯香香丁ころる	三十名前後の背惠が長い、現室のカーオ名の導形局ででドカオた	
7	て来ることが大変なことで、若い		<b>入</b> 月1!		いて、4、牧内の名田が、(6)		同窓会通	交司家庭古会の念会問題このいて	「王原利(れんたれ)会」の仮会	
	る。この会報も実は今日まで続け	「可高思会感い、」「ヨーニヨーを一一、一、新編集委員にしる第十一号の第	58:		C E	Q B		るのててどろいたたきたい	「二世しくつしこし」 会一つ引き	
2	とが出来るかか一番の問題であ		, ,	ļ	天長(2)		「これ」、「「「「「「「「」」」、「「」」、「「」」、「「」」、「」」、「」」、「」	るりでごうしいとごきとい。	正引育一大配日二相崔される、	<i>t</i> .
ř	ったら興味を持って動員させると	HKナと御支援をよ願い翌します	中		ほとの(3)大葉新支部受治う、オリアンドの人気の(3)大葉新支部受治す。	7	の四月し日へと、日後三寺とり云	きこよって4氏ヒニ限与されていた。 兰賀の著住か(44)小木管調	百月十九(日)との日に有志会	ž
J	を適切に感じた。若い期をどうや	<ul> <li>征</li> </ul>	、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		日命に知るの内に用重されて、ド	より会員の年会費を一千円也とす	であった。中信地区今後の盛会を	を受け出席。 意義ある会合であっ	に月三日(水)五月一日(水)	
	取扁長り凶み」 氏面していること		1 <b>1</b>		会総会し		区十五极	で開催された。本会から小牛招待	◎二月六日(水)三月六日(水)	
~	花岡唯今の皆さんの意見をき				「第九回、長	輩を相談役に推せんする。	とした近接校の親		たので、御一見賜りたい。	
	ーズ物を入れたらどうか	人材を選んで貰ったので、この人			より、四谷駅近くの私学会館で、	一一、島田支部長御退任により同先		窓会、関東支部経済問題懇談会」	に詳細本紙上に報告していただい	
	林各面の担当をきめて、シリ	62期の広範囲から二十名の優秀な			◎五月二十二日(火)午後五時半	-		八期生を中心とした「上田高校同	すは編集委員の(35)石倉謙一君	
	か楽しい記事を入れて貰いたい	に31期から			祈りたい。		◎四月八日(火)「長野県中信地	◎二月二十一日(月)第四十七、		
7	期には、人気がうすいのではない			オー売言して	田口	一定した詳細こついては一面を卸詳		友交の現空を架めることと。	本手伝会宿で、本会の「玲事会康	
°.	一一一一 カタイ記事が多くて若い	「きまったのたからというととて	(副支部長・矢島五郎記)	重々猥淡した。	まる。 ク滞の同其白や外雪後蜀の	V	こと見てることであったと思		©二月一日(金)例年の如くこの	
1	をしたらどうか。「なまえ」作者		ア原レカレ ロー	言谷事が三十一泉新行長と方門、 一子」日司役戸にブネブ音重夕谷	あら• く割つ司用E5 后畳を置つ		、原力	そ月三月二二三日(二)、同道	し御報告にも兼ねたいと思う。	
C	青水(浅)テーマを考えて寺科		し頂いとい。以上。	10五月二十五日(土)午後二時三				する目的であるその打合会がひら	後における事務局日誌の大要を記	
5.4	切内、老い邦の原稿を集める方			おどろきの一つであった。	金会館で中信地区にある県ヶ丘高	本紙		「高校同窓会連合会総会」を開催	行事も続いた。次に第十号発行以	
g	なるべく細かい記事を	御	同窓生のよしみを願い、前回に変	の出席が約と以上あったことも、	◎五月十六日(水)新宿の厚生年		-	区に属する公私立高校十八校の、	事務局にも何やかやと、せわしい	
	小市人物住来のようなもの、	活躍されていることと存じます。	会議を事務局でひらく。母校愛と	って無事に終了した。女子校役員	解散は夜十一時すぎであった。	0	校、日田高校、そして	◎二月七日(月)長野県の東信地	ねばならなかった。それに加えて	
	れるので、なるべく入れた方が		◎五月二十八日(月)第二回編集	た。先づは盛会に県歌の合唱をも	FC TO TO	10.00		つつある。	なく第十一号の 編集にとりかから	
	馬場 会員消息などがよく読ま	吉助の季節と	報告記事を卸一見ねがハたハ。 一部がたいで、	参考ともなったことを喜しく思っ	一、た。私心なく全同窓生のために	名比席返信であったか、実仕席は	上田千曲高校、北佐久農業	子さんたち有志や本会員の友人ま		•
	目が結成したり、活躍しているも	<b>临</b> 衛	大森支部長外役員幹事数名出席、	簿を丁載したことは、明年本会で	私は本当い	百四名、計一四三名である。七十	席校は岩村田高			(8)
	牧内経済懇談会のような、会	編集委員長	で開催された本部同窓生大会に、	近作成された三校ほどの同窓会名			計幹事の以上六名が出席した。出			)
	て貰いたい	o編集後記o	り上田市の母校前にある同窓会館		委員長の下にペン、鉛筆が動	5	- ARA - 1	20 B	ヨーマカコ	
	柳沢報告記など連載物を入れ		◎五月二十六日(日)午後一時よ	一問い尉れ、我が同窓会の今後の運	ニランや始めての委員を交え、花岡	ニーも揃えた期もあり、午後六時よ	1 (35) 花岡 偆編集委員長、(37)			
And in the other statement of the statem				And in the other distribution of the other d	A DESCRIPTION OF A DESC	The second s		and the second s		A NUMBER OF CONTRACTOR OF CONT

私達は建築・土木設計を出発点とした 若い グループです「すべてにクリエイトする」と いう考えかたを基本方針にして 不動産 観 光の部門を増設しました

幅広いサービスと創造の場の拡大が目的です 環を拡げる 私達は若さを武器に正確な情報を真摯な態度 ●役員 で考え信頼のある相互関係の上に立って創造 取締役会長塚田和磨(信大) することをモットーにしています 代表取締役社長塚田修(中大)

これからも より多くの人々と話し 交流し 行動してゆきたいと考えています ●設計部門=公共・民間の企業体を通じてよりよい人間環境造りをめざす
 ●不動産部門=財産管理と業務の正常化をめざす

●1 秋辺美前「」→州産首星と采紡の正常化をある; ●観光部門=独自の企画を基に 人間の友好の 環を拡げる

取 締 役 会 長 塚田和磨(信大) 代表取締役社長 塚田 修(中大) 専 務 取 締 役 遠藤 満(芝浦工大) 常 務 取 締 役 清水義幸(56期)

## 不動產法律相談所

●不動産について あらゆる問題に対処します
 私達も参加しています 気がるにご相談下さい
 ●アドバイザー
 弁護士 岩井重一(62期)
 税理士 飯島力夫(33期)

ENGINEERING DESIGN REAL ESTATE LEISURE CREATIVE TED Company Limited 株式会社 テッド

本社 東京都新宿区新宿2-3-12・光和ビル 電話03-356-3861代表 〒160 支社 東京都新宿区新宿2-12-9・大倉ビル 電話03-354-8794 〒160